

# 仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年12月9日

事業名	公共施設予約システム運用事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

## 1. 基本情報

担当組織	部	行政経営部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し		
	課	情報政策課			款	2	新規or継続	継続事業		
	係	情報管理係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業		
政策体系	体系コード	723	名称	根拠法令、条例等	目	19	義務or任意	任意的事業		
	基本目標	7			市民参加による自立したまちづくり	事業期間	開始年度	H19	実施方法	直営
	政策	2			多彩な交流と情報活用によるまちづくり	終了年度	-	事業分類	その他市民に対する事業	
	施策	3			デジタル技術の活用と普及					

## 2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

### (1) 事業概要

事業概要	市の公共施設利用者の利便性の向上を図るため、インターネットや携帯電話から公共施設の利用予約するシステムの維持管理を行う。
------	--

### (2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	いつでも、どこでも、公共施設の利用予約ができるようにする。
-------------------------	-------------------------------

### (3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
アクセス件数	件	39,000	42,000	45,000	48,000	51,000
全予約件数	件	15,000	16,000	17,000	18,000	19,000

## 3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

### (1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	インターネットや携帯電話から24時間の利用予約が可能な民間事業者のASP方式のシステムの運用・管理を行った。
--------------------------	--

### (2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
利用できる施設数	施設	20	20	20
事業費計	千円	2,145	2,145	2,145
一般財源	千円	2,145	2,145	2,145
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

### (3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	登録している施設の予約状況を確認することができるようになった。
------------------	---------------------------------

### (4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
アクセス件数	件	36,594	62,474	46,917	値が大きいほど良い	効果が下がった
全予約件数	件	12,447	16,937	17,473	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

### (5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	1指標
	0指標
	1指標
指標全体	効果は変わらない

※10万円以上の増減により判断

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった			
	費用の増減無し		○	
	費用が増加した			

## 4. 次年度に向けた検討

### (1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

トラブルなくシステムを運用することが求められている。
----------------------------

### (2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

# 仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月8日

事業名	スマートセーフシティ推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	1-④	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ 該当あり

## 1. 基本情報

担当組織	部	総合政策部	予算中事業名	会計	1	事業計画	期間限定複数年度			
	課	デジタル推進課			2	新規or継続	継続事業			
	係	デジタル推進係			1	市単独or国県補助	市単独事業			
政策体系	体系コード	723	名称	根拠法令、条例等	7	義務or任意	任意的事業			
	基本目標	7			市民参加による自立したまちづくり	事業	開始年度	R3	実施方法	一部委託
	政策	2			多彩な交流と情報活用によるまちづくり	事業	終了年度	R7	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	3			デジタル技術の活用と普及					

## 2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

### (1) 事業概要

事業概要	市民が健康で安全安心に暮らせるようデジタル技術を活用し、より住みやすいまちづくりの実現に向けたスマートセーフシティを推進する。
------	---

### (2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	デジタル技術を活用し、市民が健康で安全・安心に暮らせる利便性の高いまちづくりを推進する。
-------------------------	--

### (3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
快適で住みやすいと思う市民の割合	%	-	81.5	82.0	82.5	83.0

## 3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

### (1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐野市スマートセーフシティ推進委員会の開催</li> <li>スマートセーフシティ佐野推進協議会の開催</li> <li>投稿機能の実証実験</li> <li>さのスマートセーフマップの情報更新</li> <li>学校法人佐野日本大学学園と「地域社会の情報格差解消に関する連携協定」締結</li> <li>さのまる健康アプリキャンペーンを実施し、一定のポイントを達成した方へデジタルギフトを送付。市内携帯ショップおよび佐野日本大学短期大学へアプリのインストール支援を依頼。</li> </ul>
--------------------------	--

### (2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
推進委員会・推進協議会の開催数	回	1	2	2
スマートセーフマップの閲覧数	件	-	7,527	30,343
健康アプリ参加者数	人	-	319	2,655
事業費計	千円	70,000	73,750	24,007
一般財源	千円	0	36,875	0
特定財源（国・県・他）	千円	70,000	36,875	24,007
（うち受益者負担）	千円			

### (3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	<ul style="list-style-type: none"> <li>さのスマートセーフマップの情報更新を行ったものの、閲覧数の伸びは大きくなかった。</li> <li>健康アプリの登録方法を簡単にするとともに、市内携帯ショップや佐野日本大学短期大学での登録支援を行ったことにより、参加者の増につなげることができた。</li> </ul>
------------------	---

### (4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
快適で住みやすいと思う市民の割合	%	81.4	80.2	79.7	値が大きいほど良い	効果が下がった

### (5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標 効果は変わらない指標数 0指標 効果が下がった指標数 1指標 指標全体 効果が下がった	

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			○
費用の増減無し			
費用が増加した			

## 4. 次年度に向けた検討

### (1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

<ul style="list-style-type: none"> <li>さのスマートセーフマップが広く認知されていないこともあり、情報更新を行ってもその効果が反映されなかった。</li> <li>健康アプリの登録支援を行ったことにより参加者の大幅な増につなげることができたことから、今後もデジタルデバイド解消に向けた取組を行っていく必要がある。</li> <li>国、県の動向を踏まえ、今後の事業内容を検討していく必要がある。</li> </ul>
---

### (2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

取組説明
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）
①さのスマートセーフマップを多くの人に活用してもらうためPRを行う。 ②登録支援の依頼などデジタルデバイド解消に向けた取組を行う。 ③デジタル化推進にあたって国・県の動向を確認し調査等の協力及び今後の事業内容の検討を行う。 ④デジタルを活用したまちづくりを進めるため、観光、商業など広い分野における事業の検討を行う。

# 仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年8月8日

事業名	スマートセーフシティ推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	1-④	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ 該当あり

## 1. 基本情報

担当組織	部	総合政策部	予算中事業名	予算科目	会計	1	事業計画	期間限定複数年度	
	課	デジタル推進課			款	2	新規or継続	継続事業	
	係	デジタル推進係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	723	名称	根拠法令、条例等	目	7	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	7			市民参加による自立したまちづくり	事業開始年度	R3	実施方法	一部委託
	政策	2			多彩な交流と情報活用によるまちづくり	事業終了年度	R7	事業分類	その他市民に対する事業
	施策	3			デジタル技術の活用と普及				

## 2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

### (1) 事業概要

事業概要	市民が健康で安全安心に暮らせるようデジタル技術を活用し、より住みやすいまちづくりの実現に向けたスマートセーフシティを推進する。
------	---

### (2) 目的

### (3) 目標値

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	デジタル技術を活用し、市民が健康で安全・安心に暮らせる利便性の高いまちづくりを推進する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		快適で住みやすいと思う市民の割合	%	-	81.5	82.0	82.5	83.0

## 3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

### (1) 活動実績

### (2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・佐野市スマートセーフシティ推進委員会の開催 ・スマートセーフシティ佐野推進協議会の開催 ・投稿機能の実証実験 ・さのスマートセーフマップの情報更新 ・学校法人佐野日本大学学園と「地域社会の情報格差解消に関する連携協定」締結 ・さのまる健康アプリキャンペーンを実施し、一定のポイントを達成した方へデジタルギフトを送付。市内携帯ショップおよび佐野日本大学短期大学へアプリのインストール支援を依頼。	活動指標	単位	R3	R4	R5
		推進委員会・推進協議会の開催数	回	1	2	2
		スマートセーフマップの閲覧数	件	-	7,527	30,343
		健康アプリ参加者数	人	-	319	2,655
		事業費計	千円	70,000	73,750	24,007
		一般財源	千円	0	0	0
		特定財源（国・県・他）	千円	70,000	73,750	24,007
		（うち受益者負担）	千円			

### (3) 活動による効果

### (4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	・さのスマートセーフマップの情報更新を行ったものの、閲覧数の伸びは大きくなかった。 ・健康アプリの登録方法を簡単にするとともに、市内携帯ショップや佐野日本大学短期大学での登録支援を行ったことにより、参加者の増につなげることができた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		快適で住みやすいと思う市民の割合	%	81.4	80.2	79.7	幅が大きいほど良い	効果が下がった

### (5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果			
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数		0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数		0指標			
	効果が下がった指標数		1指標			
	指標全体	効果が下がった				

## 4. 次年度に向けた検討

### (1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・さのスマートセーフマップが広く認知されていないこともあり、情報更新を行ってもその効果が反映されなかった。 ・健康アプリの登録支援を行ったことにより参加者の大幅な増につなげることができたことから、今後もデジタルデバイド解消に向けた取組を行っていく必要がある。 ・国、県の動向を踏まえ、今後の事業内容を検討していく必要がある。
--

### (2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input checked="" type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	取組説明 ①さのスマートセーフマップを多くの人に活用してもらうためPRを行う。 ②登録支援の依頼などデジタルデバイド解消に向けた取組を行う。 ③デジタル化推進にあたって国・県の動向を確認し調査等の協力及び今後の事業内容の検討を行う。 ④デジタルを活用したまちづくりを進めるため、観光、商業など広い分野における事業の検討を行う。
---	---